

## (朝の散歩で)



朝、いつものスーパーの買い出しからの帰り道、バスを降りて、今日この頃ではすべて葉の落ちた桜並木を作るアーチの下の小道を歩いていると、視線の上方の小枝に尾っぽの長い小鳥が止まっていました。名前は知りません。

可愛らしいので、歩速を緩めて、下から見つめていると、小鳥はそれに気づいたらしく、ぱっと飛び去りました。

「横か上かを見ていたはずなのに、下から見上げている人間の目線に気づくんだ！」

少し驚きました。その視野の広さに。

それで、ふと思ったのですが、小鳥にしろ、わんこにしろ、にゃんこにしろ、動物は常に外界に注意を払っている。だから周りの景色や外界の変化がすぐさま目に入って、しかもそれに対してとても敏感だ。

ところが、人間さまには思考能力と言う余計なものも付いているし、こころの内と外とかもあって、そこを行ったり来たりもしている。下手をすると内にばかり目が向いていて、外の変化に何も気づかないで居ることだってある。

頭の中で、宇宙についてや、世界について考えている一方、宇宙の一部、世界の一部であるはずの、目の前の小鳥に気づかないこともあり、今日の天気にも気づかないこともある。

まだ、そのくらいなら可愛いけれど、人類の万人に対する愛のあり方について、それこそ誠実且つ純粋に必死で考えているその傍らで、目の前にうずくまって苦しんでいるひとが目に入らず、通り過ぎてしまうことだってあるし、考えに気を取られたていて、マンホールに落ちることだってあり得る。現に僕の友達も、落っこちてしまって大けがをした。

確かに動物は、せいぜい注意を配ったとしても、外敵の行動やえさを見過ごさないことくらいで、楽ちゃんは楽ちんだ。

そこへ行くと、人間さまは、やれ人生だ、老後だ、就職だ、結婚だ、恋愛だ、子育てだとか、あるいは生きる意味だとか存在価値だとか、はたまた金儲けだとか出世だとか名誉獲得だとか、更に更に、自分の性格だとか見てくれだとかアタマの善し悪しだとか、それこそ考えること、注意を払うことがありすぎて、目が内にむきやすいのは確かだ。

しかし、内が満杯だと外のものが入る隙間がない。隙間がなくて外の情報が入ってこないとリアルの世界に対して、つんぼさじき状態、孤立無援状態になってしまう。これでは、世界の王様にはなれるのかもしれないが、その世界は、実際には周囲に何人もひとが居るのに、それが目に入らず、自分しか感じられない「たった一人の世界」なので、王様になったとしても、人口比、一分の一でしかないのだから、あまり意味のあることではないだろう。

そもそも人間さまとていくら頭が他の生き物に対して発達しているからと言って、所詮同じく生き物なんだから、最低限、内外（うちそと）五分五分ぐらいのバランスにはなるように、外界や現実目目の前に居る周囲の人々に目を向け、注意を払う必要があるよな。

それを邪魔する一番の難敵は「人にどう見られているか」の意識かもしれない。それがころの中で、内外の乖離とずれを生み、やむなくその間を行ったり来たりする羽目になって、疲れるので、いつしか居心地の悪い外を遮断して、益々内に目が向いてしまう。動物にはそれが無い。だから、外にだけ目を向けられる。安心して、気にすることなく。

とかとか。

こんなことばかりしょっちゅう考えているので、一日が経つのが早くて退屈せずに済むのでいいにはいいのですが、さすがに疲れもするので、この辺で止めておきます。

まだ、朝が始まったばかりで一日保（も）たなくなりそうなので。